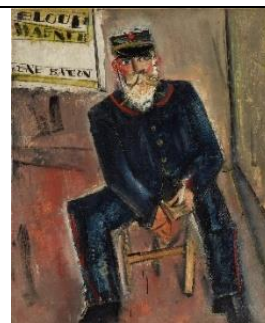


佐伯祐三 自画像としての風景 2023. 1.21 SAT ▶ 4.2 SUN

およそ100年前、大阪、東京、パリの3つの街で短くも鮮烈な生涯を送った天才画家・佐伯祐三(1898-1928)。佐伯は短い画業の中でしばしば画風を変化させましたが、それは多くの場合、描くべき風景の発見と結びついていました。本展では佐伯が描いた3つの街に焦点を当て、風景画だけでなく、人物画や静物画も含めた佐伯芸術の造形性について再考します。東京では18年振りとなる本格的な回顧展です。[入館料：一般1,400円、高校・大学生1,200円、中学生以下無料] 佐伯祐三《郵便配達夫》1928年 大阪中之島美術館


大阪の日本画 2023. 4.15 SAT ▶ 6.11 SUN

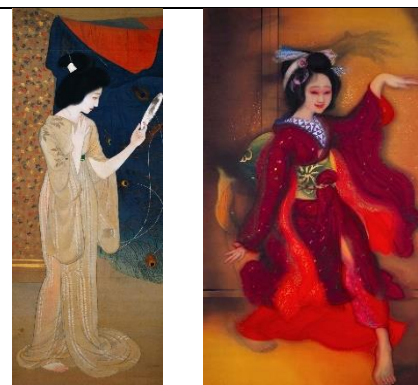
日本の三都の一つに数えられる大阪は、近代において、商工業都市として大きな経済力を誇りました。そして、高い教養をもつ富裕層らが作品を求め、それに応えるかのように北野恒富、菅橋彦、島成園といった画家たちが代表作を生み出し、多くの徒弟たちも育ちました。本展は、大阪の近代日本画の展開を読み解く内容の展覧会です。明治中頃から昭和戦前期に生み出された、華やかで洗練された名品の数々をご堪能ください。[入館料未定] 島成園《祭りのよそおい》1913年 大阪中之島美術館


甲斐荘楠音の全貌 2023. 7.1 SAT ▶ 8.27 SUN

絵画、演劇、映画を越境する個性

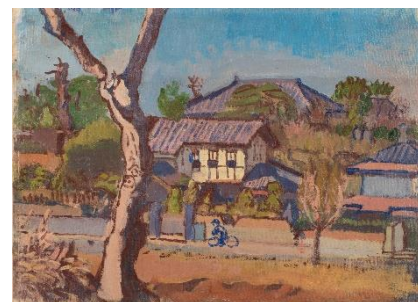
様々な領域を越境した表現者・甲斐荘楠音(かいのしょう ただおと/1894-1978)の生涯にわたる創作の全貌を回顧する展覧会。人間の生々しさを巧みに描写した独特の画風から「京都画壇の異才」として知られる甲斐荘ですが、その後半生において映画業界で活躍したことはあまり知られていません。絵画、映画、演劇を横断した「複雑かつ多面的な個性をもつ表現者」へ、甲斐荘楠音を再定義します。[入館料未定]

甲斐荘楠音《秋心》1917年(左) / 《幻覚(踊る女)》1920年頃(右) ともに京都国立近代美術館


春陽会誕生100年 それぞれの闘い 2023. 9.16 SAT ▶ 11.12 SUN

岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ

春陽会は新進気鋭の画家たちによって1922年に創立され、以降、常に画家たちの個性を尊重し、自由闊達な活動を後押しし続けました。形式に左右されず、大衆に訴えかけようという自由さが、油彩だけでなく、春陽展での素描、挿画、版画などの出品へとつながりました。そして、この会を舞台に、小杉放菴、木村荘八、長谷川潔など、著名な画家たちが活躍しました。本展はその創立から1950年代までの展開を追いつつ、春陽展出品作などを紹介します。[入館料未定] 小林徳三郎《郊外風景》1926年頃 東京ステーションギャラリー


みちのく いとしい仏たち 2023. 12.2 SAT ▶ 2024. 2.12 MON

近世、上方や江戸でつくられた端正な仏像が、本尊として空間荘厳や教義の象徴の役割を果たしてきた一方で、小さなお堂や祠、家庭の神棚や仏壇に祀られた木像がありました。儀礼のためというよりも、日常のささやかな祈りの対象として、北東北 — みちのく — のあちこちで生きのびてきた木像のなかには手や足を欠いたものも少なくありません。本展では、日本美術や仏教美術の粋では語ることのできない、こうした素朴でやさしい表情の木像の造形と信仰について考えます。[入館料未定]

《岩手県八幡平市 兄川山神社 山神像》



2022.10

開館時間 = 10:00-18:00 [金曜日-20:00] *入館は閉館の30分前まで

休館日 = 月曜日 [祝日の場合は翌平日休館。会期最終週・GW・お盆期間中の月曜日は開館]、展示替期間、年末年始

*開催内容・会期は変更することがあります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください